

「三遠南信を語る会」 —三遠南信の食文化—

と き 平成23年2月5日(土) 午後1時30分～3時

ところ 豊橋市中央図書館 3階 集会室

「三遠南信の食文化」をテーマに、豊橋調理製菓専門学校校長、鈴木良昌さんを講師にお迎えして講演会を開催しました。

鈴木先生は、三遠南信問題のはじまりとして、「豊橋港を使って欲しい」また「浜松自衛隊航空基地の一部を渥美の花を輸送するコンピューター空港にしたい」など、この地域の願いがあったことを挙げられ、また、豊橋人と浜松人の気質の違いについても触れられました。

昭和43年、豊川用水が完成したことによって、田原市一帯は温室園芸が盛んになり、三河地方は日本有数の農業地域となったことを話された後、豊橋・浜松・飯田の三市を中心とした三遠南信地方の食文化について、具体例を提示しながらお話を進めてくださいました。



豊橋調理製菓専門学校校長
鈴木良昌さん



はじめに、浜松を中心とした遠州地方の食文化を代表するものとして、うなぎや静岡メロン、浜名湖かき、どうまんがになどについて紹介されました。

次に飯田を中心とした南信州地方の食文化については、五平餅、蜂の子、そば粉、おやきなど多くの具体例をもとに伝統的な郷土食について紹介されました。

三つ目に、地元豊橋市を中心とした三河地方の食文化について詳細に述べられました。エディブルフラワーや大葉、次郎柿、種なし巨峰、ミニトマト、キャベツなど野菜類、あさりなどの魚介類、三河牛や三河ポークなど肉類についても紹介されました。。





先生の豊富な知識と経験をもとにしたお話により、この地方が、いかに食の豊かなところであるかを知り、この地元に誇りを持つという気持ちが高まった講演でした。